

平成20年 3月13日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室長 天童 厚則 様

社団法人日本作業療法士協会
会長 杉原 素



第43回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃（社）日本作業療法士協会の活動につきまして、ご支援ご協力を賜り深く感謝いたしております。

さて、3月2日に実施されました第43回理学療法士作業療法士国家試験問題につきまして、全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ、および出題形式（図や設問の説明）について、再度検討をしていただきたく下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい5つの問題（作業療法専門4問題、共通1問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記致しました。

謹 白

記

I 複数の解が選択できると思われる問題4問（作業療法専門問題の間45、55、63、共通問題の間30）、2つの解を求められているものの1つしか選択できないと思われる問題1問（専門問題の間6）を国家試験として適切でないと考える（別添資料参照）。

II その他の意見

用語や設問の表現等が不適切であり、選択肢の理解に戸惑う要因となっていた問題（作業療法専門問題の間10、33）、消去法や優先順位等から解は選べるものの、該当すると言いきれない（作業療法専門問題43）、あるいは他の選択肢も該当する可能性のある問題（作業療法専門問題の間37、共通問題の間32、79）、および図の情報からは判断が難しい問題（作業療法専門問題の間10）があると考えます。

第43回理学療法士作業療法士国家試験問題
適切でないと思われる問題

(平成20年3月2日実施)

専門問題

問題番号 (6)

問題6 脳梗塞発症2日目で、意識レベルがJCS 1桁となり、座位訓練を含めた作業療法を開始した。

訓練中止の目安として正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 訓練開始前の収縮期血圧が180mmHgであった。
2. 訓練開始前の安静時脈拍が100/分以上であった。
3. 訓練中に不整脈が1分間に10回以上出現した。
4. 訓練中に収縮期血圧が20mmHg以上上昇した。
5. 訓練中の脈拍が120/分以上となった。

解：3

理由

訓練中止の目安を土肥-アンダーソンの基準で考えた場合、「3. 訓練中に不整脈が1分間に10回以上出現した」は基準に該当するが、他の選択肢は基準に当てはまらない。よって、選択できるのは3のみであり2つの解を導き出すことができない。

参考とする文献

- 1) 岩崎テル子 編：身体機能作業療法学。標準作業療法学 専門分野，医学書院，p49，2005。
- 2) 石川 斉，古川 宏 編：図解作業療法技術ガイド（第2版）。文光堂，p473，2004。
- 3) 和才嘉昭，嶋田智明：測定と評価（第2版）。リハビリテーション医学全書5，医歯薬出版，p506，2000。
- 4) 前田真治：老人のリハビリテーション（第6版）。医学書院，pp83-85，2003。
- 5) 土肥 豊：片麻痺における心疾患の合併と治療上のリスク。理学療法と作業療法5：pp438-441，1971。

第43回理学療法士作業療法士国家試験問題
適切でないと思われる問題

(平成20年3月2日実施)

専門問題

問題番号 (45)

問題45 反射の消失時期と可能となる姿勢・運動の組合せで適切なのはどれか。
2つ選べ。

1. 緊張性迷路反射消失———腹臥位での前腕支持
2. モロー反射消失———寝返り
3. 非対称性緊張性頸反射消失———背臥位での頭部挙上
4. 対称性緊張性頸反射消失———四つ這い
5. 足の把握反射消失———つかまり立ち

解：1. 2. 4. 5 (複数の解答が選択できる)

理由

選択肢1の「緊張性迷路反射消失」と「腹臥位での前腕支持」はともに6ヶ月。選択肢2の「モロー反射消失」は6ヶ月で「寝返り」は4～6ヶ月。選択肢4の「対称性緊張性頸反射消失」は8～12ヶ月で「四つ這い」は8～9ヶ月。選択肢5の「足の把握反射消失」は9ヶ月で「つかまり立ち」は9～12ヶ月。いずれも参考文献によりうかがい知ることができる。よって、解が複数存在することとなり、適切でない問題と考えられる。

参考とする文献

- 1) 日本作業療法士協会 監修：発達障害 (改訂第2版) : 作業療法学全書 第6巻, 協同医書出版社, p98, 1999.
- 2) 日本作業療法士協会 監修：作業療法評価法 (改訂第2版) : 作業療法学全書 第2巻, 協同医書出版社, pp168-175, 2004.
- 3) 中村隆一, 齊藤 宏 他：基礎運動学 (改定第6版). 医歯薬出版, pp431-436, 2006.
- 4) Lois Bly 著：木本孝子, 中村 勇 共訳：写真でみる乳児の運動発達—生後10日から12ヶ月まで—. 協同医書出版社, pp136-137, pp142-143, p153, 1998.
- 5) 鎌倉矩子 山根 寛 他編：発達障害と作業療法. 三輪書店, pp78-81, pp84-85, 2001.
- 6) M. R. Barnes 他著：真野行生 監訳：理学療法士・作業療法士のための神経生理学プログラム演習2. 運動発達と反射—反射検査の手技と評価, 医歯薬出版, p20, p30, p46, p54, p126, 1983.

第43回理学療法士作業療法士国家試験問題
適切でないと思われる問題

(平成20年3月2日実施)

専門問題

問題番号 (55)

問題55 脊髄損傷の機能残存レベルと可能な動作の組合せで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. C4———コックアップ・スプリントを装着して電動車いす操作
2. C5———電動ベッド上でのズボン着脱
3. C6———手すりを使用した寝返り
4. C7———トランスファーボードを使用した車への移乗
5. C8———プッシュアップ台を使用した床から車椅子への移乗

解：3. 4. 5 (複数の解答が選択できる)

理由

C6レベルの寝返りは、ベッド柵を使用することで可能である。C7レベルの車への移乗は、トランスファーボードを使用もしくはなくても可能である。C8レベルの床から車いすへの移乗は、プッシュアップ台を使用しなくても可能である。よって、解が複数存在することとなり、適切でない問題と考えられる。

参考とする文献

- 1) 二瓶隆一, 木村哲彦 他編：頸髄損傷のリハビリテーション (改訂第2版) . 協同医書出版社, pp139-140, 2006.
- 2) 石川 斉, 古川 宏 編：図解作業療法技術ガイド(第2版). 文光堂, pp512-516, 2004.
- 3) 萩原新八郎 訳：四肢麻痺と対麻痺 (第2版) . 医学書院, pp75-76, p105, 1999.
- 4) 神奈川リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会 編：脊髄損傷マニュアル (第2版) . 医学書院, p112, 1996.
- 5) 日本作業療法士協会 監修：身体障害 (改訂第2版) : 作業療法学全書 第4巻, 協同医書出版社, p97, 1999.

第43回理学療法士作業療法士国家試験問題
適切でないと思われる問題

(平成20年3月2日実施)

専門問題

問題番号 (63)

問題63 Yahrの重症度分類の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. Stage I ———— 両側の障害だが機能障害は軽度
2. Stage II ———— 姿勢保持の障害はないがADLは不便
3. Stage III ———— 立ち直り反射の障害がみられADLに介助が必要
4. Stage IV ———— ADLの介助は重度となり就労は困難
5. Stage V ———— On-off現象を認めるが、立ち上がることが支えなしで可能

解：2. 3. 4 (複数の解答が選択できる)

理由

Yahrの重症度分類より、Stage II 2は姿勢の変化は明確とあるが姿勢保持障害について記述はない。Stage IIIはADL障害はかなり進むとあり、ADLに介助を要すると考えられる。Stage IVは労働能力は失われるとあり、就労は困難と考えられる。よって、解が複数存在することとなり、適切でない問題と考えられる。

参考とする文献

- 1) 石川 斉, 古川 宏 編：図解作業療法技術ガイド(第2版). 文光堂, p615, 2004.
- 2) 日本作業療法士協会 監修：身体障害(改訂第2版). 作業療法学全書 第4巻, 協同医学出版, p156, 1999.
- 3) 岩崎テル子, 小川恵子 他編：作業療法評価学. 標準作業療法学専門分野, 医学書院, p378, 2005.
- 4) 安藤一也, 杉村公也 著：リハビリテーションのための神経内科学(第2版). 医歯薬出版, p190, 2003.
- 5) 米本恭三 石神重信 他編：リハビリテーションにおける評価Ver. 2. クリニカルリハビリテーション別冊, 医歯薬出版, p217, 2000.

第43回理学療法士作業療法士国家試験問題
適切でないと思われる問題

(平成20年3月2日実施)

共通問題

問題番号 (30)

問題 30 唾液について正しいのはどれか。

1. 唾液分泌中枢は中脳にある。
2. 交感神経の興奮で分泌する。
3. 1日の分泌量は1～1.5リットルである。
4. 蛋白質を分解する。
5. 分泌が増すと口腔内pHは低下する。

解：2と3（複数の解が選択できる）

理由

唾液の分泌は交感神経と副交感神経によって調節されており、両神経はともに分泌を促進するため「2. 交感神経の興奮で分泌する」は正解である。唾液の分泌量は、1日当たりおおよそ1～1.5リットルであるため、3も正しい。よって、2と3の複数の解を選択することができる。

参考とする文献

- 1) 奈良勲, 鎌倉矩子 監修: 生理学 (第2版). 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野, 医学書院, pp57-58, 2003.
- 2) 大地陸男: 生理学テキスト (第2版). 文光堂, pp309-310, 1999.
- 3) 本郷利憲, 廣重力 他編: 標準生理学 (第6版). 医学書院, pp684-689, 2005.
- 4) 小幡邦彦, 外山敬介 他: 新生理学 (第4版). 文光堂, p409, 2003.
- 5) 真島英信: 生理学 (改定第18版). 文光堂, pp434-436, 2003.